



ゆかりびと

第30回

医療法人社団為王会 尾形クリニック

会長 尾形 直三郎 さん

地域医療と歩み続けて50年 日本医師会 赤ひげ功労賞受賞



「地域の患者さんを見放すわけにはいかない」そんな強い想いを胸に、尾形先生が地域医療と向き合い始めたのは、今から50年前のことでした。大学病院で活躍していた尾形先生は、昭和51年、実兄の急逝という不慮の出来事を受けて帰郷し、尾形医院（塩谷町）を継承しました。当時、県北地域には人工透析医療の体制が整っておらず、その必要性を強く感じた先生は、地域で初めて人工透析設備を導入。その後、矢板市に尾形クリニックを開業し、長年にわたり地域医療を支え続けてきました。

こうした功績が評価され、この度「赤ひげ大賞」において「赤ひげ功労賞」を受賞。受賞の感想を伺うと、「目の前の患者さんに寄り添ってきただけ。特別なことは何もしていない」と穏やかに話します。その言葉の奥には、長年地域医療に尽くしてきた揺るぎない信念がにじみます。「地域医療を守ること、開業医の使命」。その言葉を体現するように、塩谷病院が存続の危機に直面した際には、地域と共に約3万人の署名を集め、存続へとつなげました。また、東日本大震災では長期間の断水という透析医療にとって深刻な被害に直面しながらも、地域の支えの中で医療提供を継続しました。

さらに、10年前から（一社）まちづくり矢板を立ち上げ、「まちを元気にしたい」との想いで、医療とは異なる側面からも地域にエールを送り続けています。「地域の医療は、地域を守る。住民が安心して暮らせる持続可能な医療体制には、地域・行政・住民が一体となって医療を育む姿勢が求められる」と話します。これからも地域の人々に寄り添いながら、より良い医療体制を模索し続ける尾形先生。命の誕生から人生の最期まで……。地域に根ざした医療の在り方を、静かに、そして力強く示し続けます。

Editor's Note 編集後記

▷今年度から広報担当になりました！一眼カメラも、編集ソフトの使い方も分からず、1日が体感30分で終わってしまいます…。頼りになる先輩と共に仕事ができる環境に感謝です。戦力メンバーになれるよう、頑張ります！（よっしー）

▷「白石博士の石仏案内帖」がスタート！矢板市出身の私ですが、まだまだ知らないことばかり…。「知っているようで知らない矢板の歴史や文化を伝えたい」という想いから始まりました。新緑の中たたずむお地藏さんにぜひ会いに行ってみてください！（あ）